

**特定非営利活動法人 日本小児血液・がん学会**  
**第 22 回（平成 26 年度第 6 回）理事会議事録**

日 時：平成 27 年 7 月 17 日（金） 11：00～16：40

場 所：AP 品川 P ルーム

東京都港区高輪 3-25-23 京急第二ビル

出席者：堀部敬三（理事長）

越永従道（副理事長）

井上雅美、小川千登世、菊田 敦、嶋 緑倫、滝 智彦、田尻達郎、田中祐吉、  
野崎美和子、檜山英三、堀 浩樹、前田美穂、米田光宏（以上理事）

田口智章（監事）

黒田達夫（第 58 回学術集会会長）

石井榮一（第 59 回学術集会会長）

欠席者：大賀正一、小原 明（以上理事）

花田良二（監事）

杉田完爾（第 57 回学術集会会長）

議長：堀部理事長

冒頭に、本日の理事出席者数は 16 名中 14 名であり、定款 27 条 2 項に定める成立定足数を満たしているため、本理事会は成立することを確認し、以下の議案について逐次審議に入った。

I. 議事録署名人の選出

田尻達郎理事、堀 浩樹理事が選任された。

II. 前回議事録（案）の確認

議長より、前回議事録（案）が示され、その承認を求めたところ、異議なく承認された。

III. 審議事項

1. 一般社団法人化の件

議長より、資料をもとに、本会の一般社団法人化について、一般社団法人日本小児血液・がん学会定款案・定款施行細則案が提示され、以下の討議及び決定がなされた。

1) 定款案・定款施行細則案について

全文の確認がなされ、議場にその承認が求められたところ、以下の事項を修正の上、承認された。

定款案の修正点

・定款案第2章第4条、事業(2)機関紙及び論文図書等の刊行について、「機関紙」の文言は他所との文言統一のため、「学会誌」へ変更する。

・定款案第3章第5条5項において、「社員総会日」の文言を「定時社員総会日」へと変更する。また、同項にて、評議員の任期に関して現行規則と同様にするため、「再任を妨げない。」と文末に追記する。

・第5章第25条、(役員)の任期)1項及び4項について、通算4年を超えて再任できないものとする、については実際の運営に合わせて「通算」の文言を「連続」へと変更する。

・理事を2年務めた後、理事長に就任した場合、理事長を再任して4年間(理事を含めて6年間)務めることができるかについては、法人法において可能かどうかを確認の上、可能な場合は、務めることができるように定款に追記することとする。

#### 定款施行細則案の修正点

・評議員については今後、更新審査を必要とするこの決定がなされ、詳細については評議員資格審査委員会にて検討することとなった。

・定款施行細則第1条第2項より、新たに追加された評議員選出領域の脳神経外科領域、整形外科領域の資格審査詳細については、評議員資格審査委員会での検討事項となった。

・定款施行細則第1条第4項において、「会員総数の」の文言は削除し、「特殊領域」の文言は「専門領域」へと変更し、「議決」の文言は「決議」へと変更する。

・定款施行細則第2条において、「通常総会」の文言は「社員総会」へ変更する。

・定款施行細則第3条第14項、領域別理事定数において、「内科系の領域」の文言を「小児科領域」へ、「外科系の領域」の文言を「小児外科領域」へ変更し、「脳神経外科領域」、「その他の臨床領域」、「看護・医療職・支援領域」を追加する。

・定款施行細則第5条第2項、理事長の立候補に関して、「選挙実施年12月31日現在」の文言は、「選挙実施年度の3月31日現在」へと変更する。

・定款施行細則案第8条において、「、と学術教育集会をそれぞれ」の文言を削除する。

・定款施行細則19条第8項において、「(及び専門医申請)」の文言は削除する。

女性の理事枠を一定数確保してはどうか、との意見が出たが、逆差別となるのではないかと、との意見があり、今後の検討事項となった。

#### 2) 学術教育シンポジウム(仮称)の開催・運営について

議長より、学術教育シンポジウム開催について議場に意見が求められ、以下の意見開陳・討議・決定がなされた。

・テーマを絞って演題を募集するとの開催案が示され、議場に承認が求められたところ、異議なく承認された。

・会長及び学会への負担が大きくなることが予想されるため、小規模開催としてはどうか。

・会長は立候補制とすることの確認がなされた。

・秋開催との違いを明確化させておくべきである。

・寄付金を募ることを考慮すると、秋開催への影響を考え、春開催は小規模にするべきではないか。

- ・参加者の参加費工面のためにポスターセッションを設けるべきである。
- ・参加者が自主的に参加するように、教育セミナー等を開催すべきではないか。
- ・各種表彰については秋の学術集会で実施する。
- ・春開催の費用対効果について、学会本体に支障をきたさないことが分かる形で提案して頂きたい。

本年度については、開催費用工面の都合上、これから会長を募集する時間がないため、開催・運営を堀部理事長に一任することとなった。今後、堀部理事長と各所管の委員会で協議の上、準備を進める。

### 3) 疾患委員会の今後に関する件

議長より、各疾患委員会担当理事に意見が求められ、各担当理事より、資料をもとに、存続を希望する旨の意見が示された。

意見を受け、議長より、資料をもとに、委員会再編案が示され、各疾患委員会は再編により異なる形で存続することが説明され、その委員会再編案について、議場に承認が求められたところ、一部修正の上、以下の委員会構成が承認された。

第13条2. 常設委員会は次のとおりとする。

- 1) 庶務・財務委員会
- 2) 規約委員会
- 3) 評議員等資格審査委員会
- 4) 倫理委員会
- 5) 利益相反委員会
- 6) 学術集会プログラム委員会
- 7) 学会誌編集委員会
- 8) 診療ガイドライン委員会
- 9) 学会賞等選考委員会
- 10) 学術・調査委員会
  1. 血液・免疫小委員会
  2. 止血・血栓小委員会
  3. 血液腫瘍小委員会
  4. 固形腫瘍小委員会
  5. 移植・細胞療法小委員会
- 11) 教育・研修委員会
- 12) 専門医制度委員会
- 13) 社会・広報委員会
- 14) 保険診療委員会

1 5) 国際委員会

1 6) 看護委員会

なお、新委員会の担当理事等については今後の検討事項となった。

4) 臨床研究倫理審査委員会について

議長より、資料をもとに、臨床研究倫理審査委員会については、委員会再編後は委員会としては存続しないこととし、外部の研究の審査は受けず、JCCG 案件の審査は JCCG に集約される (JCCG に確認済) 案が示され、議場に承認が求められたところ、異議なく承認された。

なお、本学会が行う研究の審査は、本会倫理委員会にて対応する方向で検討することとなった。

2. 評議員会欠席の”正当な理由”に関する件

井上評議員資格審査委員長より、資料をもとに、定款施行細則第 2 条第 2 項「正当な理由」に関して以下の内規案が示され、議場にその承認が求められたところ、異議なく承認された。

評議員資格審査委員会内規案

評議員会欠席の「正当な理由」を以下のように定める

1. 緊急対応を要する要件 (緊急手術など突発的に発生した診療業務など)
2. 評議員会より優先度が高いと考えられる要件 (重要な会議など)

※予定手術や通常外来診療など予定変更可能なものは「正当な理由」と認められない

3. 小児血液・がん専門医研修施設認定の件

米田専門医制度委員長より、本年度小児血液・がん専門医研修施設認定について、申請書類をもとに委員会にて厳正に審査されたことが報告された。審査の結果、理事会への推薦施設として、4 施設が示され、議場に承認が求められたところ、異議なく承認された。

4. 小児がん認定外科医認定の件

米田専門医制度委員長より、本年度小児がん認定外科医認定について、申請書類をもとに委員会にて厳正に審査されたことが報告された。審査の結果、理事会への推薦者として 11 名が示され、議場に承認を求められたところ、異議なく承認された。

5. 選挙立候補者の件

議長より、資料をもとに、本年度選挙立候補者が示され、募集人数に満たない領域については立候補期間を延長することが提案され、議場に承認が求められたところ、異議なく承認された。

## 6. 「公益信託 日本白血病研究基金」助成事業の学会推薦者の件

議長より、資料をもとに、平成 27 年度「公益信託 日本白血病研究基金」助成事業の学会推薦者について、受付期日を過ぎても応募者なしであることが報告された。推薦者について、議場に意見が求められたところ、菊田理事より推薦希望者あり、との意見があり、今後、推薦希望者の承認諾否について持ち回り審議にて検討することとなった。

## IV. 報告事項

### 1. 庶務報告

越永庶務委員長より、資料をもとに、会員状況について報告がなされた。

正会員 65 名及び賛助会員 1 社の入会申請があり、議場にその承認が求められたところ、異議なく承認された。

また、会員資格継続要望者 2 名に関して、資格継続について議場に承認が求められたところ、異議なく承認された。

### 2. 財務委員会報告

前田財務委員長より、資料をもとに、本年度会費納入状況について報告がなされた。

2013 年度会費納入率 97.65%、2014 年度会費納入率 87.51%であった。

また、本年度末にて会費未納 2 年目により自然退会となる会員が示され、会費納入督促通知が送付されることが報告された。

さらに、第 56 回学術集会の収支決算書が示され、議場にその承認が求められたところ、以下の事項を修正の上、承認された。

- ・項目[学会事務局へ返金]は、本会口座から学術集会口座へ補助金を拠出していない現状にそぐわないため[学術集会剰余金]へと項目名を変更する。

### 3. 社会・広報委員会報告

檜山社会・広報委員長より、本会ホームページについて、現在製作中であることが報告された。

### 4. 学会誌編集委員会報告

嶋学会誌編集委員長より、資料をもとに、本会学会誌の発行状況及びオンラインジャーナル化進捗状況について以下の報告がなされた。

#### 1) 52 巻 2 号について

- ・ 8 月 25 日公開予定である。
- ・ 会費未納者のアクセス禁止については、委員会にて継続して検討する。
- ・ 非会員購読者（書店での購入者、図書館等）への対応について、委員会で検討する

こととなった。

2) 52-3号（講演記録号）について

・執筆依頼をしていた41編中、12編が校了もしくは初校中、8編が修正中。入稿べ切を超えても約半数が入稿なし。このままでは3号の発刊が大幅に遅れるため、5号と分割して掲載することを検討する。来年以降は、3号を講演記録号にせず、届いた時期を鑑みて順次掲載を検討する。

3) 投稿規定の改訂について

・「日本小児血液・がん学会雑誌」投稿・執筆規定改正案が提示され、承認された。＜執筆要領＞1. 体裁内、「さらに共著者全員のサインを添えること、様式はホームページ(<http://www.jspho.jp/>)からダウンロードし、PDFまたはFAXで送付すること。」の文言を削除することについて、議場に承認が求められたところ、異議なく承認された。

4) 学会誌の英語表記について

・編集委員会内で審議の結果、**J Jpn Soc Pediatr Hematol Oncol** となった。

5) 学会誌投稿者のCOI申告書について

・2015年5月1日以前に投稿された審査中論文についてはCOI申告書がないままに審査をすすめていたが、遑って提出するよう著者に依頼しているところであり、算出期間は、提出日から1年間遡る。

・投稿論文の末尾に利益相反に関する自己申告状況を記述する必要があり、今後文言等を検討する。

・COIの保管については、編集事務局で取りまとめているものを、全て電子データ化し、学会事務局様にて保管することとする。

6) オンラインジャーナルについて

・個別IDとPWについて、**J-Stage**に確認したところ、1号ごとのPW設定も、会員ごとの個別ID設定も可能とのこと。学会事務局が実際の対応を行うこととする。オンデマンドのアクセス権の販売を行うこととなった。

・オンライン化に伴うコンテンツの配信については、2号の担当編集委員がコンテンツ配信の文言案を作成している。

7) 52-2号以降の販売について

・非会員購読者（書店での購入者、図書館等）への対応については、印刷が必要な場合は、オンデマンド印刷で少部数を印刷することが可能である。概算の部数を示してもらえれば、中西印刷で見積もりを積算できることとなっている。

8) ガイドラインの販売について

・52-2号に掲載する「小児血友病患者に対する中心静脈カテーテル使用のコンセンサスガイドライン」を、冊子体として販売予定である。バックナンバーを参考にして体裁を統一する。印刷部数確認後、中西印刷で見積もりを積算予定である。

## 5. 倫理委員会報告

前田委員長より、資料をもとに、次年度の学術集会より、演題登録時に、以下のようにIRBの承認の有無を問うチェックボックスを設けることについて、議場に承認が求められ、異議なく承認された。

本演題はIRBまたは倫理委員会の承認を得ていますか。

はい 承認日(      年      月      日) 承認番号(                      )

いいえ

いいえの場合は 次の質問に回答してください。

IRBまたは倫理委員会承認不要の報告である。(回答困難な場合は、各施設の IRBまたは倫理委員会にお尋ねください。)

はい       いいえ

※ただし、以下の研究は倫理審査不要とする。

- 1) 症例報告（個人を特定しないように配慮することとする）。
- 2) 一般に入手可能な試料（購入試料や公的バイオバンク等からの配布試料）や公開データベースを用いた研究。
- 3) 既に連結不可能匿名化された情報のみを用いる研究。

## 6. 利益相反委員会報告

田中委員長が途中退席のため、議長より、資料をもとに、以下の活動報告がなされた。

- 1) 役員等 COI 申告状況については、現在、129名から申告書を収集できている。
- 2) 学術集会講演者 COI 申告書は収集完了している。
- 3) 学会誌 COI 申告が 52 巻 2 号より、収集を開始する。
- 4) 7 月 21(火)に利益相反委員会を開催し、申告内容、保存方法・期間、細則追加事項等について検討する予定である。

## 7. 保険診療委員会報告

小川保険診療委員長より、資料をもとに、「コスメゲン静注用 0.5 mg」の安定供給継続に関わる要望書の厚生労働省提出について、議場に承認が求められ、異議なく承認された。

## 8. 専門医制度委員会報告

米田専門医制度委員長より、資料をもとに、以下の報告がなされた。

・第 2 回専門医試験について

現在、57 名より申請があり、提出書類に関して審査中である。

書類審査通過者については、下記要領にて筆記試験・面接試験を実施する。

試験日時：9月12日（土）筆記試験・9月13日（日）面接試験

試験会場：TKP 神田ビジネスセンター

## 9. 国際委員会報告

堀国際委員長より、資料をもとに、以下の活動報告がなされた。

- 1) **Pediatric Blood & Cancer** 編集委員会について  
PBC 編集委員会資料をもとに、PBC のダウンロード状況が報告された。
- 2) 第 57 回学術集会アジア交流セッション招聘者選考結果  
本年度招聘者選考結果が報告された。  
※学会終了後、招聘者へ、発表内容について本会雑誌への投稿を要請する。
- 3) **SIOP 2018** カンファレンス・サイトビジットについて、スケジュール及びアテンド予定者の報告がなされた。

## 10. 診療ガイドライン委員会報告

菊田診療ガイドライン委員長より、現在、改訂原稿の収集中であり、年内発刊を目指していることが報告された。

## 11. 臨床研究倫理審査委員会報告

滝臨床研究倫理審査委員長より、資料をもとに、以下の活動報告がなされた。

- ・受付番号 45～55 までの審査が継続中である。
- ・外部委員の交代が提案され、議場に承認が求められたところ、異議なく承認された。

## 12. 疾患委員会報告

議長より、各疾患委員会担当理事に活動報告の確認がなされ、各疾患委員会担当理事より、委員会継続要望書の提出について報告がなされた。

### 1) 止血・血栓委員会報告

嶋担当理事より、資料をもとに、以下の活動報告がなされた。

・「乳幼児重症型血友病に対する定期補充療法に関する前方視的研究」で登録された患者数の報告がなされた。2016 年末を目指して研究結果をまとめる予定である。

・カテーテル管理ガイドラインについて

**Minds** 治療ガイドライン作成の手引き 2007 に従い、中心静脈カテーテル留置に関するガイドラインを作成し、現在本会学会誌へ投稿中である。

・小児血友病診療ネットワーク活動について

平成 26 年 1 月から 1 年間の症例相談数は 13 件、回答数 31 件(相談者からの返事も含む)。

平成 27 年 1 月から 6 月現在まで症例相談 13 件、回答数 40 件(相談者からの返答を含む)。

その他、化血研の情報。現時点で、すでに昨年1年間と同じ相談数となっている。

- ・小児腫瘍性疾患における止血・血栓異常について

本学会の他の委員会や研究グループと関わりを持って実態の把握、病態解明、治療法などに本委員会として貢献する。

- ・先天性血栓性疾患について

大賀委員が先天性血栓性疾患の治療ガイドライン策定を目指した研究を厚生労働省の研究班で行っており、治療ガイドラインが整い次第、本委員会の小児血友病診療ネットワークを通じてパブリック・コメントを募集する予定である。

- ・小児造血幹細胞移植後の aHUS の疫学調査と移植後 TAM におけるエクリズマブ使用状況の調査研究について

小阪委員を中心に調査研究を行う予定である。

- ・小児期の定期補充療法に関する指針の作成について

酒井委員を中心に長時間作用型製剤を含めた小児期の定期補充療法のガイドラインあるいは指針を作成予定である。

### 13. 緩和ケア等委員会

越永委員長より、次回の CLIC（小児緩和ケア研修会）および教育研修セミナーの開催予定が報告された。

### 14. 第 57 回日本小児血液・がん学会学術集会報告

杉田会長が欠席のため、議長より、資料をもとに、会場使用計画案及びプログラム案が報告された。

### 15. 第 58 回日本小児血液・がん学会学術集会報告

黒田次期会長より、第 58 回学術集会準備状況について、以下の報告がなされた。

- ・事前登録を e-チケットのような形式で登録できるように検討している。その際に COI も同時に申告できるようにする。

### 16. 第 59 回日本小児血液・がん学会学術集会報告

石井次々期会長より、第 59 回学術集会準備状況について、以下の報告がなされた。

- ・サブタイトルを「地方から描く子どもの未来図」とする。
- ・種々のイベントも含めて準備を進めている。

### 17. 日本小児・思春期・若年成人がん関連学会協議会報告

議長より、協議会の活動について、厚生労働科学研究費補助金で採択された「思春期・若年成人がん対策のあり方に関する研究」の一部として実施されることになったことが報

告された。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。